

米の消費拡大作文コンクール

豊栄市では、地域ぐるみで米の消費拡大運動を展開し、その普及や宣伝に努めています。子供たちからも米のよさや大切さを知ってもらうため、先ごろ市内の小学校五、六年生を対象に作文を募集しました。各校から選ばれた最優秀作品十名の中から県のコンクールにも入選した次の一点を紹介いたします。

最優秀作品



葛塚東小学校6年 佐藤 裕子さん

お米について

わたしたちは、毎日お米を食べ生きています。学校では、パンも食べています。でもわたしは、めんどりとパンとお米の中でお米がいっぱい好きです。お米は、水分がいっぱいあるからおいしいのかなあ。パンは、水分があまりないからお米よりきらいなのかなー。わたしがいちばんお米をおいしく感じる時は、たまたたのごはんを食べた時や、スポーツなどをしておなか

がすいている時です。前に日本にお米が足りなくなってきた外国から輸入していると聞いてとてもがっかりしました。そこで新社会科用語辞典で調べてみました。すると、米作りは遠い昔から行なわれてきました。約二千年前の人びとの生活の跡が発見された登呂遺跡(静岡県)からは住居跡とともに水田の跡も見えています。

日本人は米を主食にして長い歴史を歩んできました。長い月日の間には、いろいろな努力や研究が積み重ねられ、今日見られるように全耕地の半分近くが米作りに利用され、米作り中心の農業に発展してきたのです。春の種まきにはじまり、つゆの

ころの田植え、夏の草とりや葉まき、秋のとりいれというように、短い夏の間にいそがしい仕事がつづけられ、収穫されます。台風の心配、ひでりや冷害の心配、病害虫の予防というように農家の人は休まもないほど、その対策にはげみます。近ごろでは、よい肥料がでたり、品種が改良されたり、栽培の技術が進んだりしたため、毎年のように豊作がつづいています。米の質もよく、単位面積からとれる量もたいへん多いため、日本の米作りは、世界一だといわれています。

辞典にも世界一と書いてあるのに、どうして輸入するのでしょうか。お米が不足するのでしょうか。お米は、日本の主食です。国民全部が、一番大切に思っているお米を輸入しないですむよう、何とかしてほしいです。

農家の人たちが、時間をかけ、いろいろな苦心をして、心をこめて作ったお米ーパンよりもめんよりももっと好きなお米のごはん、どうか、お米をいっぱい作って下さい。

わたしはのごろごはんをいっぱい食べます。お母さんが、

「あんな太ってきたねー。」と言いました。わたしは、夏ばてじゃなくて夏にいっぱい食べます。お米にはふしぎなエネルギーが含まれているのでしよう。わたしが作った詩だけ書いてみます。

日本の農家の人が作ったのと輸入したお米は味がちがうのかな？
きつとちがうだろうな。
心がこもっている日本のお米。
世界一おいしい味だろうな。
これからも食べたいお米。
日本人のお米。

佐藤裕子さんのほかに最優秀作品に選ばれた人は次のとおりです。
葛塚小学校五年 宇山 朋江さん
太田小学校五年 山田江里子さん
木崎小学校五年 田沢 ユキさん
笹山小学校六年 武田真由美さん
横井小学校五年 岩橋 由紀さん
岡方第一小学校六年前田美奈子さん
岡方第二小学校六年大沢奈美さん
豊栄南小学校五年 玉木 舞さん
早通南小学校五年 斎藤 健君
また、これらの作品をまとめた「作品集」が発行されました。

後世に残す写真募集

来年は、町村合併による新町建設三十周年、市制施行十五周年に当たります。そこで、現在の市のあらゆる姿の写真をみなさんから募集し写真集を作製して後世に残すことになりました。多数ご応募くださるようお願いいたします。

- 種類 春夏秋冬の自然生活、産業、行事、市民活動、風俗、風習などあらゆる姿を写したものとねらい 記録性を主とし、芸術性を従とする。
- 規格 カラー写真のキヤビネ判(十二・九センチ×十七センチ)
- 応募資格 市民または市内に通勤通学する者
- 応募期間 昭和五十九年十一月十五日から昭和六十年十月三十一日まで
- 応募先 住所、氏名、年齢を書いて、豊栄市総務課広報係(豊栄市葛塚三一九七番地)か市の各出張所
- 詳しいことの間い合せは、総務課広報係(電話七一一三〇一内線二一二)へどうぞ。

「豊栄市史研究」の第二号発行

郷土の歴史的事実と発展の過程を明らかにするため、市史編纂事業が現在着々と進められています。この事業の一端となる「豊栄市史研究」の第二号が発行されました。執筆者は市史調査員、編纂員で、次のようなものが収録されています。

- 市内における宗派別寺院と檀家の関係
- 村会議事録からみた岡方村新設当時の村政の動向、問題と村
- 亡き人や幼い日のことを思い出す豊栄の「とんとんむかし」
- この本はA五判、百七ページで価格は一冊六百円です。希望者は、市の博物館、市役所、各出張所、中央公民館でお求めください。

米消費拡大写真コンクール

米の消費拡大運動のひとつとして、先に一般募集した写真は、二十四点の応募がありました。審査の結果は次のとおりです。

- 最優秀賞 今井まき子(東栄町二丁目)
- 優秀賞 小池賢一(内島見)、倉島久美

所への苦情・要望は?

役所や公社、公団の仕事に対する苦情、要望等を聞いて、問題の解決を図るため「行政相談」という制度があります。この制度のPRを兼ねた行政懇談会が十月十八日中央公民館で開かれました。



身近な問題が出された初めての行政懇談会

市においては初めてという懇談会は総務庁の行政監察事務所と市が主催したもので、各地区の自治会長、民生委員、婦人会長ら二十人余りが出席しました。主催者からは、相談件数が昨年度県で五千件以上にのぼっていることや、病院内での喫煙コーナーの設置要望に対する改善処理など具体的な事例が説明されました。また、出席者からは、遺族年金、河川管理、排水処理など身近な生活に関連した質問や要望が次々に提出され、行政側の調査や回答、改善を求めました。市における定例の行政相談は、毎月相生荘で開かれており、行政相談委員の渡辺正民さん(城山)が応待に当たっています。



子(東栄町二丁目) 最優秀賞の作品